

NPO Picchio Annual Report 2023 - 2024

特定非営利活動法人ピッキオ 年次報告書2024



活動理念と目標

クマとの共存を通じた、
地域の自然と人々の共生

自然は私たちに恵みや癒しを与えてくれるだけではなく、
時に脅威になることを考えれば、クマは自然そのもの。
彼らとの共存を考えることは、
自然との向き合い方を考えることに通じるはず。
私たちは、野生のクマが将来にわたって生きていける環境を残し、
彼らと共に生きることを目標に活動しています。

Wild Bears for the Future



目次

| | |
|---------------|---------|
| 活動理念と目標 | 1 |
| 収支報告 | 2 |
| 軽井沢町ツキノワグマ対策 | 3 |
| ペアドッグ繁殖プロジェクト | 5 |
| その他の活動 | 7 |

本報告書は、2023年12月1日から2025年3月31日までの
活動内容を対象としています。

表紙:7月。ヤマザクラの樹上で一心不乱にサクランボを食べる。



軽井沢町からの委託事業、長野県東部などで錯誤捕獲されたクマの解放作業、上高地や新潟県の人材育成事業等に加え、クラウドファンディング等を介した多くの方からのご支援によるペアドッグ繁殖プロジェクトを、過去最大の規模で実施することができました。

■受託事業(軽井沢町ツキノワグマ対策事業) 35.2%

■受託事業(行政) 16.0%

■受託事業(民間) 1.3%

■受託事業(クマ以外) 5.2%

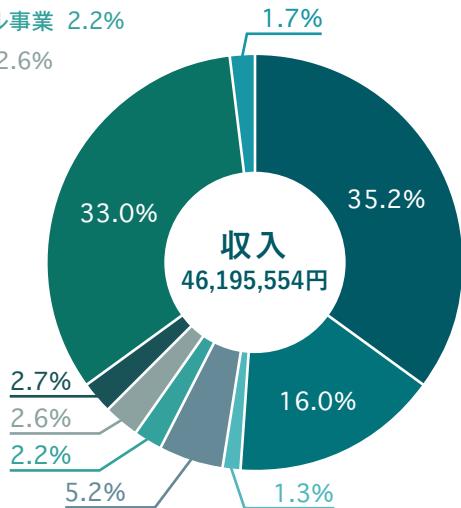
■普及啓発・コンサルティング事業 2.2%

■その他事業以外 2.6%

■会費 2.7%

■寄付 33.0%

■雑収入 1.7%



■野生動植物の保護管理及び対策事業 75.3%

■野生動植物の調査研究事業 0.3%

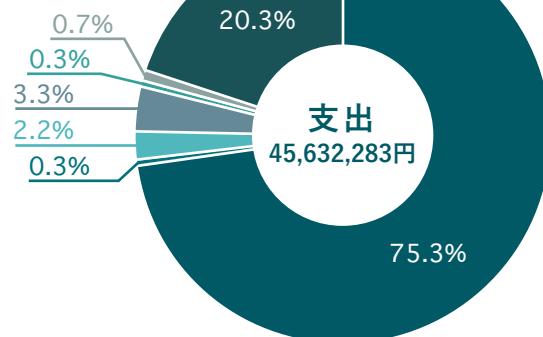
■環境保全に係るコンサルティング 2.2%

■野生動植物に係る普及啓発教育事業 3.3%

■自然環境の保全事業 0.3%

■その他事業 0.7%

■管理費 20.3%



個人会員及び法人会員からのご支援

今年度も大勢の方からご支援を賜りました。心より感謝を申し上げるとともに、今後も変わらぬご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

| | | | |
|------|-------------------|--------------|--------------|
| 月々会員 | 500円/ 14名 | 1000円/ 28名 | 2000円/ 16名 |
| 年会員 | 5000円/ 19名 | 10,000円/ 21名 | 20,000円/ 9名 |
| 法人会員 | 50,000円/ 2件 | | |
| ご寄付* | クマ保護管理(活動全般)/ 39件 | | ペアドッグ育成/ 53件 |

*ご寄付に関しては、延べ件数となります。

法人(企業・団体)からのご支援

■イオン 幸せの黄色いレシートキャンペーン

毎月11日の「イオン・デー」に発行される



黄色いレシートを地域のボランティア団体名が書かれた店内備え付けのBOXに投函していただくことで、レシート合計の1%分の品物が各団体に寄贈される取組です。2012年より継続的にご支援いただき、今期は対策に使用する充電池及びSDカードを寄贈していただきました。

■ハニープラント

ハニープラントは、ミツバチたちが命をかけて集めた蜜を、できる限り手を加えずに製品化し、自然そのままの香りと味わいを大切にする国産はちみつの専門ブランドです。本物のはちみつの魅力を伝え、安心して楽しめる食卓を目指しています。発信器を付けるためのクマ捕獲わなで使用するはちみつをご提供いただきました。



■Inside Travel Group Ltd.

Inside Travel Group Ltd. は、英語圏の顧客に対して、日本をはじめとするアジア圏への個人旅行やグループツアーを提供する旅行会社です。イギリスに本社を置き、日本のはか、オーストラリア、アメリカにも支社があります。電気柵のパワーユニットや充電式草刈機、ユニフォーム等を寄贈いただきました。



会費・ご寄附をいただいた皆様*

天津愛美、荒井茂登美、いいもの探し探検隊たーくん、井川肇、井川美代子、池田恵子、石井恵子、石井重則、石原薰、伊藤信一、イトウタカノリ、伊藤広美、井上恵徳・由美、今村正樹、岩下可奈、岩松一枝、牛山きみ江、臼井明子、梅木晶子、梅田智子、江上麻由子、大澤清香、太田明美、大橋裕樹、岡田和久、小形はるみ、岡村浩、岡本麻衣、小川翔大、奥田幸江、奥山純子、奥山由美子、柏木道子、加藤育子、鍋木恵子、鎌田深雪、鴨志田江理香、軽井沢三笠パーク管理事務所、河合弘美、川田春華、川村治夫・恵美子、川本真悠子、環境省鳥獣保護管理勉強会、菊入三樹夫、木元裕子、清道洋一、久保田律子、Klaus F. Naumann、黒田裕紀、桑原麻衣、小池時子、洪芳樹、小嶋智穂、小杉二雪、後藤真幸、後藤真理子、小林延枝、TSUYOSHI KOMATSU、齊藤了、齊藤淳子、齊藤美樹、齋藤美純、佐藤雅彦、澤正樹、澤田貴之、志田蒔宣・美香、渋谷美智子、渋谷玲子、清水彩、下村真美、白木栄美子、関明子、関根裕子、薛順子、創価学会長野県事務局、園田愛美、高石祐子、高波真紀子、高橋郁子、タカハシコウタ、高藤美嬉、竹内恵子、多勢ゆかり、田中陽子、田辺ちかこ、千葉奈美、塚田慎一、土屋美穂、時田義明、鳥羽綾乃、鳥実亮太、内藤麻菜美、中島雄平、中村元氣、錦戸久美子、西原希桜、西本明子、萩原静香、パタゴニア軽井沢、畠野崇、濱田多恵子、伴裕美、廣瀬孝、福里美奈子、福島均、保坂佳子、前田暁子、牧田恵理、増田飛鳥、増田文子、増田洋美、松岡絹子、松本謙、丸尾律子、宮嶋典子、宗村美枝子、村川奈津子、望月晶子、KOICHI MORIOKA、森谷知子、八木隆子、柳田知子・雅之、山移千鶴、山川徹郎・優子、山崎しづか、山里菜緒子、山田恵実、山本泰英、横山昌太郎、横山忠之、吉松泰子、和田素子、渡辺光司

* 2023年12月1日から2024年11月30日までに入金していただいた方で、許可をいただいた方のみ掲載（敬略称、五十音順）



「電気マット」を踏んだクマ。キャットフードへの未練を断ち切る。

隣の森にはクマがすんでいることを前提として

人家周辺の森が育ってきたことなどにより、全国的に人とクマの距離が縮まっています。2024年度の全国におけるクマ類の出没情報は20,513件と、過去最多となった2023年度の24,348件に続いて、高止まりが続きました。

こうした事態を受けて、2024年4月、四国の個体群を除くクマ類が指定管理鳥獣に追加されました。指定管理鳥獣とは、集中的かつ広域的に管理が必要な鳥獣として環境大臣が指定するもので、これまでニホンジカとイノシシが対象となっていました。今後はクマ類についても生息状況把握や、人とクマがすみ分けけるための環境整備、出没対応時の法整備ほか、総合的な調査や対策に国として取り組むとしています。長年にわたって共存のための対策を続けてきた軽井沢町から、何か発信できることがあればと思います。

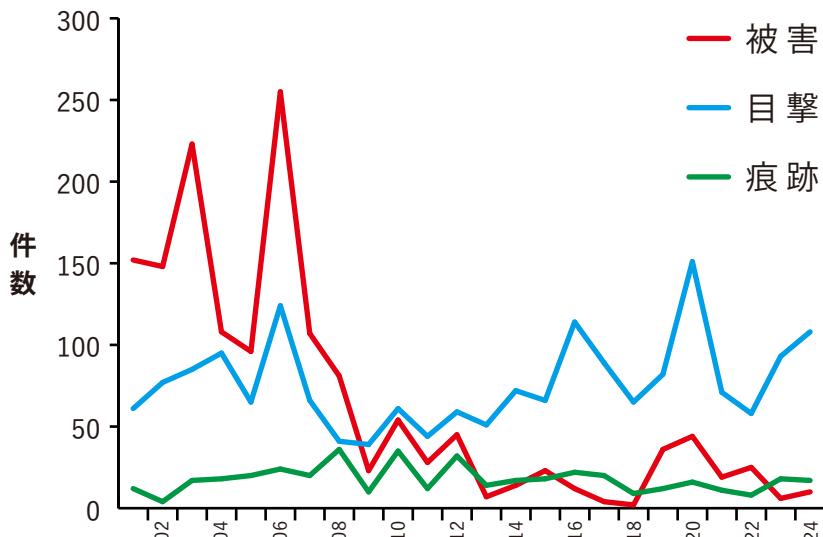


別荘地近くの樹上のクマ。ここは危険と学習させるため、長時間樹上に滞在させた。

ピッキオでは、2000年から軽井沢町の委託を受けて ツキノワグマ対策事業を行っています

軽井沢町での目撃・被害・錯誤捕獲の概況

クマ関連の情報は127件と、過去10年間の平均129件と同程度でしたが、前年に統いて、国有林内でクマとの接触事故が起きました。被害者の方は腕をかまれたとのことです。目撃件数は109件で成獣の目撃がおよそ半数を占め、若グマが目撃されることの多かったここ数年とは対照的でした。ゴミを荒らされたなどの被害件数は10件でした。シカやイノシシのわなに錯誤捕獲されたクマの数はのべ17頭で、昨年の11頭から増えたものの、2020年の56頭、2021年の25頭、2022年の20頭からは減っています。



軽井沢町内におけるクマの情報件数(2001～2024年度)

安全な距離を保ち続ける

私たちは「人とクマとの共存」、言い換えると『人の安全を守ること』と『クマの野生を保つこと』の両立を目指し、誘引物管理、ゾーニング管理、近隣の学校における出前授業、広葉樹の植樹、クマの行動管理、ベアドッグを用いた追い払いなどの総合的な対策を、軽井沢町と共に2000年から地道に継続してきました。その成果を受け、クマの平均駆除頭数は1.3頭／年という低い水準に抑えられ、市街地や住宅地、別荘地などでのクマによる人身事故は2011年以降発生していません。

上記のとおり、2024年のクマ関連の情報件数は平年並みでしたが、餌付けやゴミ管理の不徹底などにより、人とのあづれきを引き起こす可能性が高まったクマ1頭を捕獲し、やむをえず安楽殺しました。このクマは、私たちが約11年間にわたり追跡してきたオスの個体で、追い払いを実施することもありましたが、これまで「最後の一線」を超えることはなく、軽

井沢の対策を象徴するようなクマでした。意図的か意図的でないかにかかわらず、人由来の食べ物をクマに与えないことは絶対のルールです。



約11年間にわたり追跡してきたクマ。この翌日、駆除となった。

地域の皆様と共に

先日、軽井沢町在住の方から「昔はクマが怖くて夜に外出できなかった。でも、ピッキオの活動のおかげで今は安心して外出できる」とのお言葉をいただきました。「森の街」ではどこでもクマと遭遇する可能性があることを理解しながらも、恐怖感を減らすお手伝いができたことを嬉しく思いました。かつての状況に戻らないように、総合的な対策を地道に継続してまいりたいと思います。

今年度は、野生動物対策ゴミ箱の再製造、人とクマのすみ分けのための地域区分を町民の皆様と共に考えるワークショップや普及用パンフレットの作成などに注力してまいります。引き続き、軽井沢に関わるすべての皆様のご理解とご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

皆様と共に未来へつなぐ命のバトン～ベアドッグ繁殖プロジェクトのご報告と次なる希望～

日頃よりNPO法人ピッキオの活動に格別のご理解と温かいご支援を賜り、スタッフ一同、心より厚く御礼申し上げます。皆様の力強いサポートが、人とクマが共に安心して暮らせる未来を築くための大きな原動力となっております。

昨年度のレポートでは、3世代目のメス犬「レラ」の凍結精液を用いた人工授精が、残念ながら失敗に終わったことをご報告いたしました。しかし、クラウドファンディングで、皆様からの熱い想いが込められた多大なるご支援を受け、ピッキオとしてこの挑戦を諦めることなく、2024年、レラの自然交配による再挑戦へと舵を切る決断をいたしました。本稿では、その後のプロジェクトの歩み、待ち受けた試練、そして未来へと繋がる新たな希望についてご報告いたします。

人もクマも守るベアドッグたちの活躍は、皆様もご存知のとおりです。シニア期を迎えた2世代目のタマやナヌックをはじめ、日々成長を見せる若き犬たちがハンドラーと共に森を駆け、クマとの適切な距離を保つために働いています。彼らの健やかな成長と日々の働きは、まさしく皆様からのご支援の賜物です。この活動を持続させるための生命線であるベアドッグの安定的な育成を目指し、私たちはレラの自然交配に望みを託しました。

しかし、慣れない環境でのストレスからか、レラの発情は予想よりも大幅に遅れてしまいました。そのような状況の中、田中の一時帰国中には、彼の高校生の娘が現地に残って、レラのケアと観察を献身的に続け、7月8日、渡米から実に2ヶ月以上が経過して、ようやくレラの発情（出血）が確認されました。これは前回の発情から218日目でした。

様々な想いが交錯する中、7月22日、レラとパハカスは自然に惹かれ合い、待望の初交配に成功。その後4日間で計8回、非常に良好な交配期間を持つことができ、大きな期待と共に繁殖フェーズを終えることができました。

自然交配の成功を経て、大きな期待と共にレラの妊娠期間を見守りました。8月15日、フェアバンクスでの超音波検査によりレラの妊娠が確認され、最低でも2～3頭の胎児の存在が認められました。8月22日、レラは無事に日本へ帰国し、長い二拠点生活が終わりました。帰国後の再検査でも胎児の

相手として選ばれたのは、アメリカのベアドッグ育成機関 Wind River Bear Institute (WRBI) で育成されている若きオス犬「パハカス」でした。しかし、諸事情によりパハカスの来日は叶わず、プロジェクトリーダーの田中とレラがアラスカへ渡ることになりました。2024年5月、皆様からのご支援を受け、フェアバンクスへの長い旅が始まりました。渡航にあたっては、長時間のフライトに備えたレラの訓練や、航空会社様のご理解により、レラが飛行機の客室に搭乗できるという幸運にも恵まれました。アラスカでは、WRBIのニルス・ペダーソン氏をはじめ、温かいベアドッグ・コミュニティーに支えられながら、レラとパハカスが良い関係を築けるよう努めました。



アラスカ州フェアバンクスで一緒にくつろぐ
ピッキオのレラ(左)とWRBIのパハカス(右)

順調な心拍が確認され、出産予定日（9月22日前後）に向けて、皆様のご支援で改修させていただいた繁殖小屋の準備を進めました。しかし、予定日1週間前のレントゲン検査で胎児3頭が確認されたものの、その発育の遅れから予定日超過の可能性が指摘され、不安が心をよぎりました。9月21日からレラは繁殖小屋での生活を開始し、私たちはその時を静かに待ちました。



レントゲン検査を受けるレラ。

しかしながら、予定日を過ぎてもレラに出産の兆候はなく、9月27日の朝、普段とは違う黒緑色のおりものが確認され、胎盤剥離の疑いが浮上しました。翌28日朝になっても状況は変わらず、緊急入院となりました。陣痛促進剤の投与も効果がなく、最終的に帝王切開に踏み切らざるを得ませんでした。開腹の結果、判明したのは非常に厳しい現実でした。レラの子宮は片方が空で、もう片方に3頭すべてが入っており、しかも胎盤機能不全により2頭は既に子宮内で死亡していました。さらに子宮収縮不全も判明し、レラ自身の生殖器系に何らかの潜在的な異常があった可能性が考えられました。

この絶望的な状況の中、1頭だけ、かろうじて生きて生まれてくれた子がいました。それが蘇生を経て誕生した小さなメスの子犬「ハッティー(HATTIE)」でした。一方で、帝王切開の影響か、レラは母性を見せず育児放棄の状態となり、ハッティーの命を繋ぐため、田中による懸命な人工哺育が始まり

しかし、10月6日の夜、その希望は突然絶たれました。ほのかの犬たちの世話をしているわずかな間に、ハッティーは毛布の上で、眠るように息を引き取っていたのです。生後わずか9日。原因はおそらく窒息でした。守り切れなかった命に対し、深い悲しみと共に責任を痛切に感じました。皆様からの温かい励ましのメッセージ、地元の小学生からの心のこもった寄せ書きがなければ、再び前を向く決意を固めることができなかつたでしょう。

レラの繁殖挑戦は、これで終わりとなります。彼女の身を削るような頑張りには、ただただ感謝しかありません。しかし、ベアドッグの未来をここで途絶えさせるわけにはいきません。失意の中にいた私たちのもとに、アラスカのニルス氏から一本の連絡が入りました。それは、ハッティーと同じ父パパカスと母スカイ(レラの異母姉妹の子)の間に生まれ、適性テストに合格しながらも、唯一オーナーが見つからずに入ったメスの子犬がいるという知らせでした。送られてきた写真に写るその子犬は、驚くほどハッティーに似ており、運命的な繋がりを感じました。WRBIと協議を重ねた結果、私たちはこの子犬「スシャナ(Sushana)」を、日本における次世代のベアドッグ育成の希望として迎え入れることを決定いたしました。

スシャナは現在、日本の検疫規程をクリアするためアラスカで待機しており、来日(2025年6月の予定)に向けて準備を進めています。来日後は、ベアドッグとしての訓練を積み、2026年春の独り立ちを目指します。

また、ハッティーは一時期体重が減りましたが、生後3日目から力強くミルクを飲み始め、V字回復を見せていました。この小さな命が未来への希望だと信じ、昼夜を問わずにケアを続けました。



生後5日目のハッティー(HATTIE)

この一年、ベアドッグ繁殖プロジェクトは、歓喜と試練に満ちた、まさに激動の一年でした。レラの懸命な挑戦、ハッティーが遺してくれた命の輝き、そしてスシャナという新たな希望。その全ての過程において、皆様からの温かいご支援と励ましが、私たちを支え続けてくださいました。改めて、心より深く感謝申し上げます。

私たちは、この経験から得た多くの学びを糧とし、スシャナと共に新たな一步を踏み出します。人とクマが共生する持続可能な未来を目指し、これからも誠心誠意努力を続けてまいります。今後とも、ピッキオの活動、そしてベアドッグたちへの変わらぬご支援と、温かいまなざしで見守っていただけますよう、お願い申し上げます。



雪に覆われたフェアバンクスで心地よく過ごすスシャナ。

ベアドッグ支援団体

■(株)こもれび



障がいのある方々に、日中活動として働く場を提供するとともに、知識及び能力の向上のために必要な作業等の就労支援を行っている企業。ベアドッグの訓練用トリー(鹿肉等のジャーキー)をご提供いただきました。

■VANTAGE株式会社



原料の原産地や純度など、科学的根拠に基づいたNMN等のサプリメント製品を開発販売している企業。モニターとしてベアドッグたちのNMNサプリメントをご提供いただきました。

その他の活動

錯誤捕獲されたクマの解放



本来捕獲を目指していない動物を誤って捕獲してしまうことを「錯誤捕獲」といい、近年、シカやイノシシ用のわなにクマが錯認捕獲される事例が全国的に増加しています。ピッキオでは主に長野県東部で、クマをわなから解放する作業（町内16件、町外56件）を行いました。クマの錯誤捕獲には、人身事故が発生するリスクが伴います。また、シカやイノシシが捕獲されたわなにクマが誘引されてしまうことも懸念されます。さらに、わなの見回りが不十分であったために錯誤捕獲されたクマが死亡する事案も発生しています。今後は、錯誤捕獲が発生した際の解放作業に加え、錯誤捕獲の発生防止に対しても取り組んでいきたいと考えています。

「どんぐりがえし」への参加



浅間山麓にもともと広がっていた広葉樹の森の復元を目指す「どんぐり運動の会」の活動に参加しました。地元の小学生が拾い集めたドングリなどから苗木を育てて国有林に植樹しています。野生動物からみた人家周辺の環境の魅力を下げるこことセッテで、奥山の質を高めていくことは、人と野生動物のすみ分けを実現するためには極めて重要といえます。

錯誤捕獲されたカモシカの解放等



国の特別天然記念物であるニホンカモシカ3頭の錯誤捕獲に対応し、無事に解放しました。また、市街地に出没した個体の捕獲・放猟作業にも従事しました。

ニホンザルへの電波発信器装着



軽井沢町から委託を受けて、町内を遊動域とする群れの中から、群れを率いる優位のメスザルを特定し、2頭に電波発信器を装着して放猟しました。軽井沢町では装着した発信器からの電波を利用してニホンザル対策を行っています。

境界線上での対策



昨年度に引き続き、国有林と住宅地の境界をはっきりさせるためのやぶの刈り払いに参加しました。この林は通学路に面しており、地元の方々によるやぶ刈りが15年以上続けられています。

実習・講義・視察等



軽井沢町で実践しているクマ対策の事例やベアドッグによる取組の紹介、クマの安全講習会等を実施しました。

【実習・講義・視察を行った学校及び団体】

- ・軽井沢西部小学校 ・軽井沢中部小学校 ・軽井沢東部小学校
- ・軽井沢中学校 ・軽井沢高等学校 ・森のようちえんぴっぴ
- ・軽井沢風越学園 ・大日向小学校 ・おもがえっこ
- ・長野原町立中央小学校 ・長野原町立浅間小学校
- ・長野原町立長野原中学校 ・開成中学校・高等学校
- ・TCA 東京 ECO 動物海洋専門学校 ・大阪 ECO 動物海洋専門学校
- ・福岡 ECO 動物海洋専門学校 ・中央動物専門学校
- ・サレジアン国際学園中学校高等学校 ・専門学校ビジョナリーアーツ
- ・筑波大学 ・軽井沢町 ・御代田町 ・上田市 ・長野原町 ・環境省
- ・長野県望月少年自然の家 ・一般財団法人自然公園財団 上高地支部
- ・武蔵野市立自然の村 ・日本野生動物医学会
- ・長野県野外保育連盟 ・株式会社ういるこ ・技建開発株式会社
- ・Moving-inn Tokachi ・株式会社星野リゾート

※順不同

学校行事でのベアドッグによるパトロール



クマとの遭遇を未然に防ぐため、軽井沢西部小学校のハ風山強歩登山や、佐久市望月少年自然の家のベアドッグパトロールを行いました。

キャンプ場でのコンサルティング



6月中旬からの周辺でのクマの出没を受け、荒船パノラマキャンプフィールドの職員10名を対象に、クマの生態に基づいた対応策、情報発信の方法などを紹介し、キャンプ場の方向性を考えいただきました。

インターンシップ等



次世代の人材育成を見据えて、クマ保護管理について学ぶ学生インターンや社会人を受け入れました。2024年夏から秋にかけて、国内外の大学・専門学校の学生及び社会人、計24名が参加し、クマ保護管理の現場を体験していただきました。

【インターンシップ実績】

- ・岩手大学 ・信州大学 ・筑波大学 ・北海道大学
- ・公立鳥取環境大学 ・京都外国语大学 ・東京農業大学
- ・立命館大学 ・龍谷大学 ・埼玉動物海洋専門学校
- ・Aberystwyth University(ウェールズ) ・Arizona State University(アメリカ)
- ・Clemson University(アメリカ) ・French school of Agronomy(フランス)
- ・Griffith University(オーストラリア) ・HAS green academy(オランダ)
- ・Oxford University(イギリス) ・Russian Academy of Sciences(ロシア)
- ・University of Lincoln(イギリス) ・Yosemite National Park

【学会、シンポジウム等への参加、寄稿、情報提供】

- 長野県佐久市で開催された日本クマネットワーク公開シンポジウム「長野・静岡・岐阜におけるクマ対策の歩みとこれから」に参加しました。弊団体は軽井沢町における取組を「人とクマとの共存～森の街 軽井沢25年間の歩み～」というタイトルで口頭発表しました。
- 日本哺乳類学会2024年度大会自由集会「ツキノワグマ保護管理の現場と研究者の連携：長野県東部から」
- 群馬県立自然史博物館特別展「ぐんまの自然の『いま』を伝える」にてポスター発表。



信毎選賞を受賞しました

2024年10月、ピッキオは第29回信毎選賞をいただきました。信毎選賞は学術、芸術、スポーツ、社会活動などで優れた業績を挙げ、将来なお一層の活躍が期待される個人、団体を顕彰するため、信濃毎日新聞によって1996年に創設された賞です。今回の受賞者は、カンヌ国際映画祭で国際批評家連盟賞を受賞された映画監督の山中瑠子さん、国際数学オリンピックで金メダルを受賞した松本深志高校の狩野慧志さん、そしてピッキオでした。

ピッキオは「クマと共存できる社会」の実現に向けて、地道に取り組んできた活動を評価していただきました。1990年代後半の活動当初はクマによるゴミ荒らしの件数が100件を超える年もあり、いつ人身事故が起きても不思議ではない状況でしたが、クマに荒らされないゴミ箱やクマに境界線を教え込むペアドッグの導入によって、状況は劇的に改善されました。公共のゴミ集積所におけるゴミ荒らしの件数は2009年に0件になり、その後も0から一桁の件数を維持しています。人間の利用エリアにおける人身事故は2011年以降、13年間起きていません。

ここまで活動を続けて来られたのは、ひとえに皆様からの温かいご支援、ご理解とご協力のおかげです。クマを通じてお会いした住民の方々、軽井沢町、長野県、環境省、林野庁ほか行政関係者の皆様、信州ツキノワグマ研究会をはじめとする専門家の皆様、そのほか書ききれないほど多くの方々のご指導を受けてきました。この場をお借りして御礼を申し上げます。今回の受賞を励みに、今後も地域の方々や関係機関と連携し、より一層活動に邁進してまいります。引き続き、どうぞよろしくお願い申し上げます。



出版物のご紹介

「となりにすんでるクマのこと」

軽井沢在住のサイエンス・イラストレーター、菊谷詩子さんが「月刊たくさんのふしぎ2024年11月号 となりにすんでるクマのこと」（福音館書店）を上梓されました。3年半にわたるクマの観察や対策現場での取材にもとづき、軽井沢周辺で暮らすメスグマの一年間を軸に、人間との摩擦が起きる背景やその解決方法が盛り込まれた一冊です。博物館の展示物や図鑑のイラストなどを手がけられている菊谷さんは、一頭一頭の顔の違いまで描き分けられており、かわいいだけでも怖いだけでもない、野生のクマの現実がみごとに表現されていると思います。

ところで、私、玉谷（50代）が子供の頃、本やテレビに登場するクマは、人間活動によって生息が危ぶまれている奥山の動物でした。それが最近では「アーバンベア」が

市街地周辺を利用し、クマによる人身事故も増加傾向にあります。彼らとの摩擦を減らすための出発点は、身近な森でもクマたちがたくましく生きている現実を、自分ごととしてとらえることではないでしょうか。本作品の対象者である小学生をはじめ、多くの皆様に読んでいただき、想いの輪が広がっていくことを願っています。



著者の菊谷詩子さん

「はじめて学ぶ哺乳類学」

ピッキオの理事である日本獣医生命科学大学獣医学部教授の山本俊昭先生が「はじめて学ぶ哺乳類学」（文一総合出版）を11月に上梓されました。本書では、哺乳類の生物としての特徴やからだのしくみ、行動やくらしの調べ方、人間社会との関係などが、具体的な例を交えて紹介されています。

野生动物に接する機会が少ないままに、偏った動物の認識が拡がっていることを山本先生は憂いでおられ、また、そのような現状に対して哺乳類のことを体系立てて学ぶ本が少ないと感じておられたそうです。哺乳類学の入門書とするべく執筆された本書は、哺乳類に対して漠然と憧れを抱く中高生や大学生、哺乳類にかかる勉強や仕事を目指す方におすすめの内容になっています。

山本先生はピッキオの私たちと、約20年にわたってクマの調査を行っており、本書にはフィールドでの写真も掲載されています。絵の得意な学生の皆様によるイラストも親しみやすく、ぜひ、多くの方に手にとっていただけたらと思います。現場の私たちも参考書として使わせていただくつもりです。



著者の山本俊昭教授（右から二番目）と研究室の皆様

役員名簿

理事長：楠部 真也 …… 株式会社ピッキオ 代表取締役社長
理事：山本 俊昭 …… 日本獣医生命科学大学 教授
理事：土屋 芳春 …… 一般社団法人 軽井沢観光協会 会長
監事：柳田 知子

スタッフから



玉谷 宏夫 TAMATANI Hiroo

一人ではできないことが、人が集まればできるようなる。でも、人と作業をすることで、一人ではできていたことができなくなることもある…。小学生の頃に感じたもやもやは今になっても消えません。季節は変わり、クマは動き始めました。いきものることを知りたいという原点に立ち返り、それぞれが持ち味を発揮しながら、人と自然の健やかな関係づくりに貢献できる組織になれたらと思います。引き続き、ご指導をよろしくお願ひいたします。

井村 潤太 IMURA Junta

監視頭数の増加や、別荘地や集落周辺を利用するクマに発信器を装着していることもあり、過去最多となる286回の追い払いを行いました。追い出すのに苦労する場面も多々ありましたが、それだけ被害や事故が起こる確率を減らせていると考えると、追い払い班の士気も上がります。次年度も「エルフ」と共に頑張ります。



関 良太 SEKI Ryota



先日、クマに装着したカメラで撮影された映像を見ました。当然ですが、そこには森の中を歩いたり、樹上でドングリを食べたり、兄弟姉妹か親と思われる別のクマと出会ったりする、クマの日常が撮影されていました。人には人の営みがあるように、クマにもクマの営みがあるのだという、当たり前ですが、とても大切な気づきを得ることができました。引き続き、人とクマの営みが可能な限り重複しないようにするために活動してまいります。

アメリア ハイオンズ Amelia Hiorns

5年前に、イギリスから日本へ来ました。幼い頃から野生動物に興味があり、ピッキオでツキノワグマの保護管理に関わることになりました。イギリスにはクマがないので、日本でこのような魅力的な動物と関わる仕事ができてすごく嬉しいです。クマの活動が活発な季節はとても忙しいですが、皆様のサポートのおがけでいつも頑張ることができます。これからもよろしくお願ひします。



編集後記

長年、弊団体の活動の中核を担ってきた田中純平と大嶋元が離職いたしました。苦しい期となりますと、原点に立ち戻って地域の自然や人々の声に耳を傾け、二人がこれまで培ってきたものを引き継いで進化させていくよう、新しいスタッフを含めた全員、「エルフ」、若犬「スシャナ」とともども、頑張ってまいります。引き続き、皆様の深いご理解とあたたかいご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願ひいたします。 スタッフ一同

「ご支援のお願い」

ピッキオは人と自然、野生生物との新たなつきあい方を探り、
クマ保護管理活動などを通して、生物多様性と生態系の保全に取り組んでいます。
皆様のご賛同、ご支援をよろしくお願ひいたします。

ご寄付

クマ保護管理(活動全般)

3,000円／5,000円／10,000円／30,000円／不定額(1,000円～)

ペアドッグ育成

3,000円／5,000円／10,000円／30,000円／不定額(1,000円～)

会員

月々会員

月500円(年6,000円)／月1,000円(年12,000円)／月2,000円(年24,000円)

年会員

年5,000円／年10,000円／年20,000円

お手続き

専用の振替用紙をピッキオにご請求いただくか、郵便局に備え付けの用紙をご利用ください。

郵便局口座番号：00520-9-94147

名義：特定非営利活動法人ピッキオ

※ 郵便局備え付けの用紙をご利用の場合、大変恐れ入りますが、通信欄に下記の①～④をご記入ください。

- ① 支援の方法：「寄付／年会員」(いずれかを選択)
- ② 寄付の使い道：「クマ保護管理／ペアドッグ育成」(①で寄付を選択の場合のみ、いずれかを選択)
- ③ ピッキオを知ったきっかけ
- ④ 活動報告書へのお名前の記載について：「可／不可」(いずれかを選択)

※ ピッキオのホームページからもお手続きいただけます。右の二次元コードより、ホームページへアクセスできます。



※ ピッキオビジターセンターでも承っております。スタッフにお声がけください。

「特定非営利活動法人ピッキオ 年次報告書2024」

2025年9月発行

〒389-0111長野県北佐久郡軽井沢町大字長倉2148

☎/FAX 0267-46-3818

E-mail info@npo.picchio.jp

URL https://npo.picchio.jp/

